

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

児童の心身の発達にふさわしい教育を推進し、豊かな思考力・判断力・表現力を培い、心の教育を重視しながら、強じんな気力・体力と思いやりのある心や自主的精神に満ちた実践力を身に付け、自らの向上とより良い社会の発展に貢献しようとする、心豊かでたくましく生きようとする人間を育成する。

◇ 具体目標（目指す児童像）◇

- | | |
|-------------------|--------|
| 1 自ら学びくふうする子ども | （考える） |
| 2 元気でがんばる子ども | （鍛える） |
| 3 礼儀正しく思いやりのある子ども | （思いやる） |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

合言葉 「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」 ～考える 鍛える 思いやる～

心豊かでたくましい子どもの育成には、子どもが生き生きと楽しく学習や活動に取り組む、明るく活気のある学校づくりが重要である。そのためには、次の学校像を目指す。

- 目指す学校像1 「子どもが楽しく学び、居がいをを感じる学校」
目指す学校像2 「教職員が協働し、指導力を発揮する学校」
目指す学校像3 「保護者・地域から信頼される、魅力ある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全職員が学校教育目標の共通理解に努め、調和の取れた教育活動を展開し、合言葉や具体目標の重点化を通して、教育目標の具現化に努める。

- （1）常に「全ては子どものために」を念頭に置き、一人一人が清原中央小学校の職員であることの自覚と誇り、危機管理意識をもって勤務し、公務員及び教職員としての資質や指導力の向上に努める。
- （2）職員一人一人が率先垂範の精神で児童の教育にあたり、その姿勢を通して児童に学ぶ意欲や思いやりの心を育てる。また、一人一人の児童の夢を育む教育活動「夢いっぱいプロジェクト」を継続的な推進を図るとともに、確かな学力、個性を生かした教育と生きる力の育成に努める。
- （3）○地域学校園内の小中学校はもとより、保護者や地域社会、各種団体との連携を密にし、地域の教育力を生かし、地域に開かれた信頼される学校にする。

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成

2nd stage ～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- （1）本校教育課程は、日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、並びに栃木県教育振興基本計画2025や「宇都宮市第2次学校教育推進計画後期計画」・「清原学校園教育ビジョン」に基づき、創意ある教育課程を編成する。
- （2）本校教育目標・経営方針や努力点・学校課題等を踏まえ、「学校マネジメントシステム」による学校評価結果を反映させながら、地域社会や保護者の願い、児童の実態・特性、学校の施設・設備、職員組織の実態等を十分考慮して、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して編成する。
- （3）地域と連携しながら全教育活動を有機的に関連させ、「深い学び」を実現することを目的としたカリキュラムマネジメントを働かせる。また、モジュールの有効活用等により、確かな学力を身に着けるための適正な時数の確保に努めるとともに、子どもと向き合う時間を確保するための業務改善を図る。その際、学習指導要領における「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一人一人の児童が確実に身に付けられるようにすることを目指して編成する。
- （4）児童の自主的・実践的活動や体験的な活動を多く取り入れた特色ある教育活動が展開できるよう編成する。なお「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】 ・児童生徒にとって楽しく居がいのある笑顔あふれる学校づくり（清央 PRIDE） ○小中一貫教育カリキュラム（４３２制カリキュラム）の実施 【学 習 指 導】 ・自分の考えをもち、豊かに表現する児童の育成 ～課題や目的に応じた一人一台端末の効果的な活用について～ 【児 童 生 徒 指 導】 ・時と場に応じて、自ら進んで元気よくあいさつができ、思いやりを行動で表し、積極的に友達と関わり合える児童の育成 【健康（体力・保健・食・安全）】 ・自らの健康・体力の維持向上に関心をもち、生涯にわたって健康で安全な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
1ー（1） 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・授業のねらいを明確にし，考える時間を確保したり，授業形態を工夫したりするなどして，児童が積極的に学習に取り組めるよう支援する。 ・グループ学習で話し合い活動を積極的に取り入れることで，自信をもって発表したり，意欲的に学習に取り組んだりできるように支援する。 ・教科担任制やローテーション授業を効果的に実施することで，学習意欲を高め，学習内容の定着を図る。 ・学年だよりやHP等で児童の日々の学習の様子を掲載し，保護者に発信していく。		【達成状況】 【次年度の方針】
1ー（2） 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上	・清掃活動や学校行事などに縦割り班活動を積極的に取り入れ，上級生が下級生の面倒をみる場を設定する。また，清掃班編制を2回とし，交流の機会を広げる。 ・道徳科の授業と全教育活動との関連を図り，思いやりのある豊かな心情を育む。また，思いやりと感謝についての生活目標を設定する回数を増やし，児童への意識付けを行う。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 3 児童は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上	・児童が活躍する場を工夫したり，実情に応じて児童が活動できることを提案したりするように努める。 ・夢いっぱいプロジェクトに具体的な内容を盛り込んだ目標を設定し，それに向かって取り組む態度を育て，報告会で，自分ができるようになったことを実際に披露する機会を設け，テレビ放送で流す。 ・学級で，自分の目標を発表する時間を作り，他の児童がどんな夢に向かって頑張っているのか知り，応援できるようにしていく。		【達成状況】 【次年度の方針】

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上	・保護者や地域のスクールガードと連携を図りながら、児童が健康安全を意識した行動を習慣化できるようにさせる。 ・指導に関する環境を整えとともに、むし歯予防への意識を高めていく。 ・保健便りなどの各種便りについて、さくら連絡網を活用し、保護者に情報を発信していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答90%以上	・クラスタタイムを活用し、目的意識や活動の意義を児童がより深く認識できるようにする。 ・夢やめあてを表すときに、具体的に数値化することで、目標を明確にし、より高い目標に向かう児童の姿を目指す。 ・縦割り班、登校班などの異学年交流で、上学年が下学年のために何ができるか考える機会をもつ。下学年は、上学年に対して憧れをもてるような機会を設け、学級担任が助言を行う。 ・高学年としての意識をもつことができるよう、上級生と下級生が関わる場を増やす。	【達成状況】 【次年度の方針】
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答90%以上	・情報委員会と連携し、給食時に英語の歌などに触れさせ、授業以外でも英語に親しむ機会を設ける。 ・英語科主任が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上	・生活科や社会科、「宇都宮学」を中心に、継続して、宇都宮市全体や他地区との比較検討をすることで理解を深めることができるようにする。 ・清原の豊富な地域の教材を活用した学習を様々な教科において展開する。 ・学年便りや学校便り、学校ホームページ等を利用して、児童が宇都宮についての学習を行っていることを周知していく。 ・給食の献立について、郷土料理などの提供回数を増やし、地域の食材や料理を児童に周知していく。	【達成状況】 【次年度の方針】

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の 肯定的回答 85%以上	・校内読書週間を実施し、本に触れる機会を確保し、各教科での調べ学習等にも活用するなど、自分が興味ある種類の本以外も積極的に読めるように促す。 ・校内研修で学んだことなどを授業に生かして、タブレットを活用する機会を更に増やし、コミュニケーションのツールとしても有効に活用していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・児童会活動が何につながったのかを明確にするために各種便りに結果を掲載したり、校内放送で周知したりすることで共通理解を図る。 ・物を大切にすることを育むために、物への記名や委員会の啓発ポスターなどを活用する。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可能な社会」についての資料を把握しておき、指導に生かせるようにする。 ・児童からの啓発ポスター等の活動ができるようにする。 ・給食の残食量について、児童・教職員に認知してもらえるような取組を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	・校内支援委員会、月1回の情報交換会等を通して、管理職・学年の教員・教育相談担当教員・特別支援担当教員・SC等、と連携・協力して児童一人一人のニーズや悩みを把握して早期発見、解決に努める。 ・継続的に組織的な対応を行い、情報の共有・引継を確実に行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の 肯定的回答 85%以上	・いじめゼロ強調月間の活動でいじめゼロ標語を作成する際、保護者と共に作成することとし、クラス代表作品を校舎内に掲示し、保護者にも知らせる。 ・道徳の授業参観等を機会に、学校での指導を保護者に積極的に発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の 肯定的回答 90%以上	・担任、学年だけでなく、全職員で児童を見ていくという意識を高めて、連携を密にしていく。 ・HPや学校だより、学級懇談会の機会を通して、不登校対策についての取組を保護者・地域に情報提供していく。 ・教育センターやスクールカウンセラー等との連携を深め、当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを更に充実させていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。	・「夢いっぱいプロジェクト」の実践を通して、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。	【達成状況】 【次年度の方針】

3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 95%以上	・ドリームタイムや児童会活動等を通して良好な人間関係づくりに努め、より主体的に人と関わる力を醸成していけるようにする。また、「学級自慢週間」などの機会を通して、クラスとしてのまとまりを強めるような取組も推進していく。 ・HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信し、理解と協力を求める。	
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・朝の学習の時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・少人数指導や特別支援教育担当等と、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。 ・個人懇談や学級懇談会の折に、保護者からの要望を聞くようにし、学習指導に生かせるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上	・個々の役割と責任を明確にした上で、複数配置による主務者の負担軽減、相互に協力しながら業務を行う。 ・かがやきルーム指導員、学校図書館司書、日本語ボランティア、SC、ALT、ICT支援員等の学校スタッフと積極的に情報交換を行い、教育活動が効率的に機能するよう取り組む。 ・校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを実施していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上	・日課の見直しや、打合せと会議の抱き合わせ実施など可能な取組を次年度も継続し、業務改善の意識を高めていく。 ・学校の取組を情報発信して、保護者や地域の理解を得るとともに、ボランティアの協力による支援も含めた業務の効率化を進めていく。 ・自己研修日を設け、自己研鑽に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】

5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童（5・6年）・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	○6年児童の進学先中学校訪問、児童生徒指導強化連絡会を通して、小中学校の情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。 ・中学生と合同のあいさつ運動や乗り入れ授業等を進め、学校園としての意識をもたせる。 ・今年度の6年生からは中学校でのSCとの面談が可能となるため、中1ギャップへの対策も含め、積極的に活用を促し、地域の教育力を生かしていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	・地域協議会やPTAと連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図る。 ・「宇都宮学」を含めた総合的な学習の時間の指導計画を見直し、地域教材を有効に活用していくことができるようにする。 ・収穫祭や昔遊び体験、施設巡りなど、地域との連携を図りながら、児童にとって有意義で充実した活動を継続、実施していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上	・月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕する。 ・学校での安全に関する活動を保護者や学校施設利用者に知ってもらえるように、事前に周知徹底を図り、未然防止に努める。 ・以前行っていた七三歩きや折り鶴プロジェクトなどを実施することで、室内での事故発生を防ぐ。また、さくら連絡網やHPなどを活用し、地域や保護者へ発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答80%以上	・各教科において、児童一人一人が常にタブレットを活用できる体制を整え、ICT支援員を有効に活用し、授業の充実に努める。 ・調べ学習だけでなく、ペア・グループ学習でもタブレットを活用し、話し合いによって深い学びになるように努める。	【達成状況】 【次年度の方針】

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	○常時指導を強化するとともに、状況を鑑みながら児童会主体の「あいさつ運動強化週間」を実施する。また、清原地域学校園、地域協議会、PTAと連携・協力してあいさつ運動を展開する。 ・「手のひらあいさつ」に込められた意味、意義を周知し直し、活動の浸透を図る。 ・スクールガードリーダー等、地域の方に挨拶や会釈等ができるよう、班長会議を機会に具体的な場面を想像させた指導を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 90%以上	○「清原っ子の約束」や「清央っ子の約束」、学習のきまり、「カテ学ふり返しシート」を活用し望ましい行動習慣の形成を促すとともに、児童の望ましい行動や、よくできたことを称賛する機会を日常的に設ける。 ・学校教育目標と関連を図って週の生活目標を設定し、児童の実態や時期に応じた基本的な生活習慣（重点目標）の徹底を図るとともに、保護者の協力を得る。 ・キャリアパスポートを活用し、自分の学習や生活を振り返る機会を確保するとともに、実態を把握し必要な指導を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 3 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値目標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上	○「清原っ子の約束」「清央っ子の約束」「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。 ・「カテ学ふり返し週間」を定期的に設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。	
	B 4 教職員は清央 PRIDE を胸に、信頼される学校づくりに向け、協働して教育活動に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら協働的に研究を進める。 ・一人一授業を公開し、児童の学びの姿を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。 ・全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し、校内研修等で検討することにより、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。